

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準(2012年度～)

適用年度：2017年度

芝浦工業大学

工学部 応用化学科

(エンジニアリング系学士過程)

(化学及び関連のエンジニアリング分野)

Engineering in Applied Chemistry

審査分類：認定継続審査

RC[-4]: RC[2] C[1]

提出日 2023年11月17日

記入上の注意

- ・ 白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・ 「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・ 「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・ 「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - （1）前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - （2）前回受審時の「C：懸念」に対する対応
 - （3）その他の前回受審時からの改善、変更
- ・ 「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
I	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
I(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
I(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	「ディプロマポリシー」に記載されている。工学部、応用化学科それぞれに育成する技術者像としてディプロマポリシーが定められ、「学修の手引」（入学時、全員に配布）および大学webページに公開されている。	変更なし	【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.2 【T02】【J02】学生手帳用(教育到達目標カード)大学のアドミッションポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/examine/admission_policy.html 応用化学科ディプロマポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
I(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは、学校法人芝浦工業大学の理念「社会に学び、社会に貢献する大学」と工学部のディプロマポリシーをもとに、JABEE認定プログラムとその運用実績を勘案し、応用化学に対する広域の人材需要にも配慮して定められている。尚JABEEプログラムは2017年度入学生をもって終了している。	変更なし	【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.2 応用化学科ディプロマポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
I(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは、これまでの求人および採用状況、授業アンケート、卒業時アンケート、父母懇談会の実施概要などを配慮して策定されている。	変更なし	【T03】【J03】授業アンケート 【T04】学生による教育評価アンケート 【T05】父母懇談会の実施概要
I(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	大学webページで公開されている。応用化学科のディプロマポリシーは「学修の手引」のみならず、大学webページにも公開されている。	変更なし	【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.2 応用化学科ディプロマポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
I(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	大学webページで公開されている。応用化学科のディプロマポリシーは「学修の手引」に明記されており、入学時に全履修生、また年度はじめに当該年度のものが全教員に配布されている。	変更なし	【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.2 応用化学科ディプロマポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
I(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
I(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	ディプロマポリシーに示した技術者像を学位認定方針として学修・教育到達目標が策定され「学修の手引」および大学webに公開されている。また、2017年度生まで入学時に学修・教育到達目標とJABEEプログラム基準の対応が明示されたカードが配布されていた。	公開WebのURLを加筆	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門) 【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.5 応用化学科学習・到達目標 https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
I(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
I(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその養育	◎	(B) 地球環境および地域社会との調和を見据えて問題を発見する。 現代の技術者には自然環境と社会、文化と人間のかかわりと技術が社会や自然環境に与える影響を洞察して仕事を進めることが必要とされている。工学部共通科目として開設されている人文社会系の科目を履修することで幅広い教養を涵養し(a)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門) 【T01】【J01】2023年度「学修の手引」p.5

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	(D) 的確な判断のもとに技術者として責任のある行動をとる。 自然環境と社会、文化と人間のかかわりと技術が社会や自然環境に与える影響を洞察して仕事を進めることが現在の技術者に必要とされている。学科導入科目として位置づけられている「工業化学概論」(1年次)で将来に目指すべき人物像を見据え、「技術者の倫理」(2年次)によって技術者としての倫理観を高める。また「化学工業総論」(3年次)を通して応用化学学科の修了生に社会が求める人材、人物像を明確に認識した上で化学技術者としての使命と責任のある行動をとれる人材となることを目指す。これらにより(b)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを用いる能力	◎	(A) 確かな基礎と化学の専門知識に基づいて問題を解決する。 応用化学を支えるのは必ずしもその専門科目だけではなく、工学一般、自然科学、情報技術に関わる知識と応用能力が必要になる。これらの多くは講義・演習の共通科目として1、2年次に開設されているものが多く、専門科目群に先駆けて履修し取得しておくことが必要である。これにより(c)(g)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを用いる能力	◎	(A) 確かな基礎と化学の専門知識に基づいて問題を解決する。 応用化学の基礎知識は主として講義科目で、講義は毎回の講義とそれに対する理解を中間試験および期末試験により評価する。また应用能力は実験科目、ゼミナール、卒業研究で涵養する。これら実験、実習等の体験型学修科目を通して自然科学、化学の基礎知識を問題解決に結びつける訓練をする。これらにより(d-1)(d-2)(d-3)(d-4)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	(E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。 問題を解決し課題を達成するための情報収集と計画、実行、報告書の作成能力、議論する能力は1年次から3年次までに開設されている実験科目および卒業研究を通して取得する。2年次後期に開設している応用化学実験では「目的は示すが、方法が示されていない課題」が設定されており、未知試料に対し複数の分析方法が立案可能になっている。この課題では一定の制約の基でそれらを解決するための計画を立て、これを基に議論を進めていくことでエンジニアリングデザインの能力を涵養する。また卒業研究を進めるに当たって、その計画を立てるための文献調査、経過報告、中間発表を経て卒業論文の作成、卒業論文発表会(公聴会)によって問題解決能力を獲得していく。これらにより(d-4)(e)(h)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	(C) 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。 化学技術者として情報を伝え、自己表現を行っていく為には日本語による口述、記述能力はもとより、チームコミュニケーション、リーダーシップなどの集団的コミュニケーションスキルに加え、国際的に仕事をしていく準備として英語のコミュニケーションの基礎能力を養う必要がある。応用化学科では共通科目として開設されている英語科目の6科目以上で単位取得することをコース修了要件(卒業要件)としている。専門科目として「応用化学ゼミナール1」、「応用化学ゼミナール2」、「卒業研究」で口述および記述能力を涵養している。これらの科目の学修により(f)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	(E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。 実験科目および卒業研究を通して自主的に学修する能力を取得する。問題を解決するための計画を立て、これを基に議論を進めていくことでエンジニアリングデザインの能力を涵養する。 (C) 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。 工学部では英語科目をはじめとする共通・教養科目を1~4年次に開講しており、継続的な学修を支援する科目配置がなされている。 これらの科目の学修により(g)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめ	◎	(E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。 実験科目および卒業研究を通して時間、資源など一定の制約のもとで計画的に仕事を進め、まとめる能力を取得する。これらにより(h)の知識と能力の修得が可能になる。	変更なし	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表(共通、専門)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	「工業化学概論」「化学工学実験」「有機化学実験」「物理化学実験」は3～5人のチームで行なっている。特に「工業化学概論」や「化学工学実験」では1課題にチーム点が配点されており、組織の一員として他者と協働する能力が涵養されている。	一部修正	【添付資料編】表2、表3 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表（共通、専門）
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	学修・教育到達目標を達成するための水準は各科目のシラバスに明記され、総単位124単位中69%以上が数学、自然科学および科学技術に関わる科目で構成されエンジニアリング系学士過程として十分な水準のプログラム構成になっている。	変更なし	【T07】【J01】2023年度「学修の手引」p.5
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	「学修の手引」、芝浦工業大学webページに公開している。	変更なし	【T08】【J01】2023年度「学修の手引」p.5 【J04】芝浦工業大学JABEEへの取り組み 【T09】大学webページ 応用化学科3つのポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/chemistry/#policy
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	教員向けには教員ハンドブックにて周知している。同に加え、新入生および教員には年度始めに「学修の手引」を配布し、新入生ガイダンスで学科プログラムの概要と履修について説明し、周知している。また2017年度生まで「応用化学科の学修・教育到達目標とJABEEとの関連を示す表」をカードとして配布していた。	変更なし	【K01】教員ハンドブック2023年度 p.24 【T08】【J01】2023年度「学修の手引」p.5～p.7 【T02】【J02】学生手帳用(教育到達目標カード)
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程（カリキュラム）が設計されていますか？	◎	大学の理念、工学部のディプロマポリシー、応用化学科のディプロマポリシーをもとに応用化学科の学修・教育到達目標が設定されプログラム修了とともにこれら目標が達成されるよう教育課程が設計されている。	変更なし	【T08】【J01】2023年度「学修の手引」p.7 【T06】2022年度学修・教育到達目標対応表（共通、専門）
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	カリキュラムは「学修の手引」として新入生に配布している。また大学Webページでも公開している。「学修の手引」は入学時に全履修生、また年度はじめに当該年度のものが全教員に配布されておりカリキュラムは開示されている。	変更なし	学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/class.html 【T08】【J01】2023年度「学修の手引」p.7
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	「学修の手引」に各科目とプログラムの学修・教育到達目標との対応関係を明示している。開設されている科目と学修・教育到達目標との対応、学修・教育到達目標を達成するための授業科目の流れ（応履修モデル）が「学修の手引」（p.7）に明示されている。	変更なし	学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/class.html 【J01】【T35】2023年度「学修の手引」p.7 【T06】2023年度学修・教育到達目標対応表（共通、専門）
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	4年間の就学を標準終了年限としており、化学分野個別要件をすべて満たすようプログラムが設計されていることは「学修の手引」（p.7）に明記されている。	誤字を修正	【T07】【J01】2022年度「学修の手引」p.7
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書（シラバス）が作成されていますか？	◎	開設されているすべての科目についてシラバスが存在し、公開されている。	変更なし	web版シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	大学webページにて学内外に公開されている。	変更なし	web版シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	web版シラバスの標準書式として、それぞれの科目のカリキュラム中での位置付け、教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準がある。また、学修・教育到達目標の項目に対する対応がなされている。すべての科目のシラバスについて、①達成目標②授業計画③評価方法④教科書・参考書⑤履修前の準備⑥「学修・教育到達目標との対応」⑦予習、復習を含む「授業時間外課題」が明記されている。	変更なし	web版シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	授業時間は、100分14回と定められており、「学修の手引」に記載されている。またこれに基づき時間割の編成を行い、「授業時間割表」に掲載している。すべての科目のシラバスに必要学習時間（授業時間）が明示されている。	変更なし	【T10】【J05】工学部授業時間割表2023年度（web時間割） http://ti.netable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	各教員は科目毎に授業実績記録を残しており、担当教員はシラバスにそった授業が行われていることを自己点検できる仕組みが存在している。授業実績記録は年度ごとにファイリングされていて学群書記センターに保管されており閲覧可能になっている。なお2017年度より、Sconb(学内web、現在はSconbZ)により学生、担当教員双方向に公開されている。	変更なし	【J06】授業実績記録2020、2021、2022、2023年度
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	大学組織として、教育イノベーション推進センター、キャリアサポート課、学術情報センターが設置され学修支援を実施し、図書館は試験期間中及び日曜日も開放されている。各科目のシラバスには授業時間外課題が示されている。シラバスに学修事項が記載されているのに加え、芝浦学生応援ツール「S*gsot（ガソット）」が存在し、就学および学生生活に必要な様々な情報をwebより提供している。2017年度からはSconbZ(学内web、現在はSconbZ)の運用が開始され、学生の自己学習を支援している。	変更なし	教育イノベーション推進センター http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/outline/ キャリアサポート課 http://www.shibaura-it.ac.jp/career_support/index.html 学術情報センター http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 図書館 http://lib.shibaura-it.ac.jp/ web版シラバス http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【K04】S*gsot画面JABEE達成表（2017年度生まで）
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	クラス担任制度を導入し、個別対応を実施している。成績不振者に対してはクラス担任が個別面談を行い、学修・履修指導を行っている。S*gsotのシステムから、通常の成績とは別に作成した学修・教育到達目標の達成度（2017年度生まではJABEE達成表）を確認できる。	変更なし	【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K03】学修指導マニュアル 【K04】S*gsot画面JABEE達成表 【T11】芝浦学生応援ツール「S*gsot（ガソット）」によるJABEE達成表の閲覧記録2015年、2016年 【T12】JABEE達成表 【J07】JABEE達成表 2015、2016、2017年度
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	学生は「S*gsot（ガソット）」により自身の達成状況を継続的に点検できる仕組みがある。また、成績不振者（取得単位数の少ない者）には、その保証人に対し「案内」を送付するとともに履修生本人の「回答書」の提出を義務付けている。	変更なし	【T13】学業不振者への通達およびその回答書
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	教員は5年ごとの再審査制度が導入されている。教育支援体制として、クラス担任制度、TA制度、SA制度、国際プログラム推進課、工学部学習サポート室などがある。教員への教育支援体制として、研究推進室研究企画課、知財・契約担当が設置され、有効に活用されている。応用化学科は専任教員15名、非常勤講師4名が授業を担当しており、実験、演習などの科目ではティーチングアシスタント（大学院生）がこれらを支援している。これに加え工学部には教務委員会を始めとする教学組織が存在する。	変更なし	【K05】教員資格審査規程 【K02】工学部学部主任、学科主任、クラス担任、就職担当一覧表 【K06】芝浦工業大学ティーチング・アシスタント規程 【K07】芝浦工業大学スチューデント・アシスタント規程 【K08】大学組織図 学習サポート室Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/learning_support.html 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 【J08】2022、2023教員プロフィール
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	工学部教授会、工学部学群・学科主任会議、教育プログラム自己点検委員会、教務委員会などがある。 その他に、教員間連絡ネットワークとして、応用化学科教室会議、基礎・教養科目-専門科目ミーティングが存在し、問題点やそれに対する対策、効果評価等を共有しており教育効果とその改善に貢献している。	工学部学群・学科主任、科目代表者会議を工学部学群・学科主任会議に修正、共通科目を基礎・教養科目に修正 【K12】工学部教育開発本部開催通知を削除	【K09】工学部教授会開催通知 【K10】工学部学群・学科主任会議開催通知 【K11】教育プログラム自己点検委員会議事録 【K13】教務委員会開催通知 工学部教育開発本部Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/faculty_development/ 【T16】2020～2023年度 教室会議及びその他会議日程表（教授会、主任会議、教室会議日程表） 【T17】工学部教授会規則 【T18】工学部主任会議内規 【T19】工学部教育開発本部規程
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	工学部教授会、工学部学群・学科主任会議は、年間11回の部門会議を開催しており、教育プログラム自己点検委員会、工学部教育開発本部、教務委員会も開催され議事録が作成開示されている。 また、応用化学科会議の他、材料工学科との学群会議も定期的に（併せて年10回程度）開催している。	工学部学群・学科主任、科目代表者会議を工学部学群・学科主任会議に修正	【K09】工学部教授会開催通知 【K10】工学部学群・学科主任会議開催通知 【K11】教育プログラム自己点検委員会議事録 【K12】工学部教育開発本部開催通知 【K13】教務委員会開催通知 【T16】2020～2023年度 教室会議及びその他会議日程表（教授会、主任会議、教室会議日程表） 工学部教育開発本部Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/faculty_development/
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	大学全体として、教育イノベーション推進センターが常設されている。 年度初めにはFD・SD講演会が開催されている。また、研究推進室による競争的資金、共同研究、知財、コンプライアンス等に関する説明会が開催されている。 2014年度から、10年間のプロジェクト「スーパーグローバル大学等創成支援事業（SGU事業）」に採択され、教員の総合的なグローバル教育力の向上の取り組みも行われている。さらに、2013年秋には文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択され、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活動している。 学長の下に全学FD・SD改革推進委員会が置かれ、教育プログラム自己点検委員会とも連携してFD・SD講演会の開催など学校法人芝浦工業大学として併設校を含めた全学FD・SD推進を行っており、年1回のFD講演会（4月）を実施している。	変更なし	【K14】2023年度 FD・SD講演会および2022年度優秀教育教員の顕彰について 【K15】コンプライアンス説明会（兼競争的資金執行説明会）開催について 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 https://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/project/sгу_plan.html 男女共同参画推進室 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/gender-equality/ 教育イノベーション推進センターWebページ http://edudvp.shibaura-it.ac.jp/outline/ 【K11】教育プログラム自己点検委員会議事録 全学FD・SD改革推進委員会webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/fd-sd.html
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	工学部教育開発本部の規程は全て教授会の審議を経た上で承認・制定され学校法人芝浦工業大学規定集に収められて、各部門構成は大学Webページで公開されている。「教育イノベーションセンターIR部門」、「芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業」や「女性研究者研究活動支援事業」の活動は、「チャレンジSIT-90」作戦(2015年度より「Centennial SIT Action」に移行)の報告書や男女共同参画推進室の大学Webページなどで公開されている。 全学FD・SD改革推進委員会および教育開発本部における活動内容は工学部教授会にて報告されている。全学FD・SD改革推進委員会の活動は大学webページでも閲覧可能になっている。教育開発本部における活動内容を随時教授会にて報告しており、また、全学的なFDの取り組みは大学webページ上に公開されている。	変更なし	【K16】工学部教育開発本部規程 工学部教育開発本部Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/faculty_development/ 芝浦工業大学 グローバル人材育成推進事業 https://www.shibaura-it.ac.jp/global/summary/project/sгу_plan.html Centennial SIT Action https://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/centennial_sit_action.html 男女共同参画推進室 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/gender-equality/ 【J09】教育イノベーション推進センターFD・SD推進部門報告 全学FD・SD改革推進委員会webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/fd-sd.html

番号	点検項目	自己 判定 結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	年度初めに全学FD・SD改革推進委員会による学内外講師を招いてFD講演会を開催し、優秀な教育成果を納めた教員の表彰も行っている。また、2008年4月よりスタートした「チャレンジSIT-90」作戦により、7つの挑戦に沿って各教学機関が改革項目を立て、PDCAサイクルを展開していく自律的大学改革運動を実施している。2015年度からは「創立100周年に向けた大学戦略プラン（Centennial SIT Action）行動計画書」として発展した。特に、「男女共同参画推進室」は、男女共同参画推進シンポジウムを開催するなど、大学の核となる人的資産の多様性確保に向け活発に活動を行っている。	変更なし	【 K14】 2023年度 FD・SD講演会および2021年度優秀教育教員の顕彰について。 Centennial SIT Action http://www.shibaurai.t.ac.jp/about/centennial_sit_action/index.html 男女共同参画推進室 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/gender-equality/ 【 K11】 工学部JABEE推進委員会議事録 【 T20】 FD・SDカレンダー2021、2022 【 T21】 優秀教育教員顕彰規程 全学FD・SD改革推進委員会webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/fd-sd.html 優秀教育教員顕彰制度 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/center/award.html
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それによって教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。その目的は、教員各自が、自身の諸活動について目標と達成度を明確にし、不断の改善へとつなげることである。評価項目の筆頭には教育活動が掲げられ、学士課程教育への貢献、学生支援活動等が評価される。評価方法は、年度当初に、個人の達成目標と活動計画を『目標計画書』に記述し、貢献比率を自身の計画に基づき設定し、学部長を経由して学長に提出される。また、教員資格の再審査制度を制定し、教員が着任もしくは昇格してから5年ごとに教育・研究等業績の再評価を所定の書式に基づいて実施し、その結果を本人にフィードバックすることで教員の改善意欲を継続的に高めている。教員が学内又は社会における教育活動及び学内運営に関する活動によって優れた業績を挙げた場合、これを顕彰する制度として梅村魁記念賞（平成2年～平成28年）がある。平成29年度より、この梅村魁記念賞の意志を引き継ぎ制定された「学長賞（教育）」において、新たな顕彰規程の元、教員の優れた教育活動業績に対して顕彰を行っている。	変更なし	【 K17】 芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 【 K18】 工学部教員資格審査委員会審査方法内規 【 K19】 梅村魁記念賞規程 【 K20】 学校法人芝浦工業大学大学顕彰規程 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されますか？	◎	教育・研究等業績評価実施状況、教員業績情報システムを介して入力された各種情報は、データ更新の翌日には更新され大学Webページ（教員データベース）で公表される。学長賞（教育）の候補者は、各学科主任から学長に推薦され、毎年創立記念式典にて表彰されている。	変更なし	【 K21】 梅村魁記念賞候補者の推薦について 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 優秀教育教員顕彰制度 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/center/award.html
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	年度末に、達成目標に対する達成度および改善点を『自己評価書』に記述し、学部長を経て学長に提出する。学部長は、各教員の活動計画と自己評価結果を総覧し、特に改善を要する教員に対して、助言を行うとともに必要に応じて個人面談を実施している。本プログラムの教員は全員、3月末に実施される自己評価に参加しており、次年度の教育改善に役立てている。5年毎の再審査結果は本人にフィードバックされている。 再審査項目は①教育業績（授業コマ数を含む）②研究業績③大学運営、学会・社会活動などである。また、専任教員の昇格審査でもこれらの評価を用いて審議されている。	変更なし	【 K22】 教育・研究等業績評価の実施および自己評価の入力について 【 K23】 教育・研究等業績評価シート（目標計画書・自己評価書） 【 K24】 梅村魁記念賞 受賞者一覧 【 T22】 工学部教員資格審査委員会規程 【 T23】 教員資格審査規程（審査方法内規・再審査方法含） 【 T21】 優秀教育教員顕彰規程 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 優秀教育教員顕彰制度 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/organization/center/award.html
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体、工学部、学科でそれぞれアドミッションポリシーを定めている。これに基づいて一般入試（大学入試センター利用方式、前日程、全学統一日程、後期日程）、特別入試（外国人留学生特別選抜、帰国生特別、学士・編入学試験）および推薦入試（指定校推薦、併設校推薦）が実施されている。入試委員会および工学部教授会で推薦入試の基準評点が定められ、一般入試は前日程、後期日程ともに数・理・英の3教科の総合点で選抜が行われている。	変更なし	大学Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/policy.html 工学部Webページ http://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engi neering/index.html 一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 【K25】第2106回 工学部学群・学科主任、科目代表会議 資料(2)2023年度入試実施方針【T24】芝浦工業大学学部合否判定会議内規
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	入試制度については工学部教授会で審議されている。一般入試および特別入試、学士・編入学試験については要項として学内外に公開されている。推薦入学試験については該当高校に開示している。 大学、工学部および応用化学科のアドミッションポリシー（求める学生像）および入学試験（選抜方法）は大学webページ、入試要項にて開示されている。	変更なし	一般入学試験要項 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/index.html 【J10】応用化学科パンフレット 【T25】【J01】2023年度「学修の手引」p2 応用化学科アドミッションポリシー https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engi neering/chemistry/
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	選抜方法については、入学試験の形態、適切な試験科目の配分、指定高校の推薦枠などを入試委員会にて検討の上、教授会にて承認を得て入学試験を実施している。大学入試委員会の運営のもと、推薦入試と一般入試により履修生を選抜しており、工学部長を委員長とする合否判定委員会にて合格者を決定している。	変更なし	【K25】第2106回 工学部学群・学科主任、科目代表会議 資料（2）2023年度入試実施方針 【T26】工学部指定校推薦入学制度および指定校の決定について 【T27】附属 併設高校推薦募集人数等について
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められていますか？		該当しない。	変更なし	
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？		該当しない。	変更なし	
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の決定が行われていますか？		該当しない。	変更なし	
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	大学全体として編入学・学士入学の試験方法を定めている。工学部編入学の規程は定められているが、2006年以降、他の教育機関から編入生受け入れの実績はない。	変更なし	【K26】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 【K36】芝浦工業大学編入学規程 編入学試験Webページ https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/transfer.html 学士入学試験Webページ https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/bachelor.html 【J11】2023年度編入学試験要項 【J12】2023年度学士入学試験要項
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	試験内容を具体的に定めた編入学・学士入学の試験要項を学外に公開している。書類（最終学校における成績・単位取得状況）、学力試験および面接の総合評価により判定する。入試委員会が行う合否判定会議においてその妥当性を審査の上、教授会にて審議する。	変更なし	編入学試験Webページ https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/transfer.html 学士入学試験Webページ https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/bachelor.html 【K36】芝浦工業大学編入学規程 【T28】芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 【J11】2023年度編入学試験要項 【J12】2023年度学士入学試験要項
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	2006年以降、他の教育機関から編入生受け入れの実績はない。受け入れる場合は上記の方法に従い手続きを進める予定である。	変更なし	【K36】芝浦工業大学編入学規程 【J11】2023年度編入学試験要項 【J12】2023年度学士入学試験要項 編入学試験要項 https://admissions.shibaura-it.ac.jp/admission/exam_special/transfer.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	転部転科規程・内規および試験要項として定められている。応用化学科にはJABEEプログラムのみが存在していた。他学科、他学部に移籍する場合は大学の転科、転部の規定に準ずる。尚、JABEEプログラムは2017年度生をもって終了している。	変更なし	【 K27】 転部転科募集要項 【 K37】 芝浦工業大学転部及び転科規程 【 K38】 芝浦工業大学転部及び転科規程運営内規 【 T29】 【 J01】 2023年度「学修の手引」 p. 8
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	転部転科試験要項として学内に公開している。転科、転部の規定が存在し、「2023年度学修の手引」 p. 8に記載されている。	一部修正	【 K27】 転部転科募集要項 【 T29】 【 J01】 2023年度「学修の手引」 p. 8
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？	◎	転部転科試験要項に基づき履修生の異動を実施している。転科の申請があった場合は、①各学科教室会議、②教務委員会、③入試委員会、④工学部教授会にて審議する。なお転科が認められた後、他のプログラムからの単位認定は教務委員会が行い、教授会で審議し認定する。転出の実績はあるが、転入の実績はない。	変更なし	【 K37】 芝浦工業大学転部及び転科規程 【 K38】 芝浦工業大学転部及び転科規程運営内規 【 T29】 【 J01】 2023年度「学修の手引」 p. 8
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	大学全体としては、校地面積・校舎面積とも大学設置基準を満たしており、プログラム実施に支障のない教室・実験室が確保・整備されている。PC室については、ほぼ5年に1回の割合でコンピュータの大幅な更新を行っている。図書館では、自習室を完備し、学生による選書ツアーも行っているほか、留学生を対象としたイベントも実施している。学生の休憩場所は、校舎内に適宜準備されている。国際交流活動の場であるグローバルラーニング commons (豊洲・大宮キャンパス)、国際学生寮、至近に東大宮学生寮(大宮キャンパス)が設置されている。研究室・実験室については、年1回の割合で整備状況をチェックしている。 3キャンパスにはSRAS(Shibaura-IT Remote Access Service)と呼ばれるリモートアクセスシステムを設置しており、自宅や出先などからインターネットを利用して学内のネットワークに接続したり、持ち込んだコンピュータを利用して教室から学内ネットワークに接続するサービスを提供している。学生個人のポータルサイト(S'gsot(ガソット))では、履修登録、休講情報、成績閲覧、シラバス閲覧等、多くの情報が取得できる。	変更なし	大学基礎データ https://www.shibaura-it.ac.jp/alumni/abm.php?d=91&f=abn00015271.pdf&n=2020%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF.pdf 大学データ集 https://www.shibaura-it.ac.jp/alumni/abm.php?d=91&f=abn00015270.pdf&n=2020%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E9%9B%86.pdf 国際学生寮、東大宮学生寮 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/dormitories.html グローバルラーニング commons https://www.shibaura-it.ac.jp/global/in_campus/program/glc.html CAMPUS DIARY 2022 https://www.shibaura-it.ac.jp/extra/campus_diary/2022/ 【 T30】 Hello Page2014(学術センターコンピュータ入門ハンドブック) 大学敷地面積明細 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/toyosu_campus.html https://www.shibaura-it.ac.jp/about/facility/omiya_campus.html 各キャンパスと施設・環境 https://admission.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus/index.html 学術情報センター http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	大学全体としては、収入の中心である学生生徒等納付金が安定的に確保されているとともに、支出の中心を占める人件費が適正な水準で推移しており、財源が堅調に推移しながら確保されている。大学から学科への予算については、学科在籍学生数が反映された教育経費、教員数が反映された研究用経費、そして各学科一律の設備経費に分かれて安定的に配分されており、学科の施設、設備を維持・運用・更新するための予算が確保されている。 また文部科学省等科学研究費および研究助成寄附金など研究費申請行為および経費管理・不正防止等の支援や、学外者との共同研究活動促進を支援する専門部署「研究推進室 研究企画課・研究推進課」を設置している。	変更なし	大学基礎データ https://www.shibaura-it.ac.jp/al_burns/abm.php?d=91&f=abn00015271.pdf&n=2020%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E5%9F%BA%E7%A4%8E%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF.pdf 大学データ集 https://www.shibaura-it.ac.jp/al_burns/abm.php?d=91&f=abn00015270.pdf&n=2020%E5%B9%B4%E5%BA%A6%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E9%9B%86.pdf
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	クラス担任により各学年の学生のサポートを行っている。あわせて、工学部学習サポート室を開室し、基礎科目の学習サポートを行っている。ほか、TA制度が設けられている。図書館では、各種サービスを行う窓口があり、自習室が設けられている。さらに、試験期間中およびその前の一定期間に休日開館を実施し学生に学習スペースを提供している。学術情報センター（PC室）では、相談窓口が設置しており、学生の相談にのる仕組みがある。大宮校舎と豊洲校舎間の無料シャトルバスが、週1便だったものが2015年6月から週3便に増便された。これにより大宮と豊洲を行き来する学生の便宜がある程度図れるようになった。 (1)学習サポート室：授業中の疑問点や学習の進め方についてのアドバイスなど、学習全般の相談の場として多くの学生が利用している。(2)学生センター：学生の個人的生活から課外活動をはじめ、学生が抱えている諸問題について助言、指導を行う組織として、教員と職員から構成される。(3)学生相談室：悩みを抱える学生に対し、専門カウンセラーが適切なアドバイスを行っている。(4)ハラスメント防止委員会：各キャンパスには教職員によるハラスメント相談員を配置し、また、相談ポストを設置し、随時相談受付を行っている。(5)電話によるカウンセリング、健康相談受付（24時間）その他、学生の要望については、卒業時に満足度調査を実施しており、勉学面、施設面などについて要望を聞き、統計結果を教職員に開示している。また、全学学部では、学生による授業アンケートを実施している。	変更なし	【 K03】学修指導マニュアル 【 K34】学生による教育評価アンケート CAMPUS DIARY 2023 https://www.shibaura-it.ac.jp/extra/campus_diary/2022/ 図書館Webページ http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 工学部学習サポート室Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/learning_support.html 学術情報センター http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【 T03】【 J03】授業アンケート 【 T31】学生センター会議日程表 【 J13】(化学)学習サポート室指導記録 【 J14】健康相談ダイヤル(メンタルヘルス相談) ハラスメント防止規定/委員会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/compliance/harassment.html 保健室/学生相談 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/counseling.html
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	入学時に、冊子「Campus Guide」「学修の手引」を全員に配付して、図書館利用方法、PC室利用方法、クラス担任制度、科目履修方法、学習サポート室などの周知を行っている。あわせて、大学Webページでも同様の内容を公開している。 学生支援システムは、学生生活について紹介した冊子「SIT Campus Guide」を入学時に全員に配付して情報の周知を図っている。また、大学Webページにも同様の内容を掲載し、教職員・学生へ開示している。	変更なし	CAMPUS DIARY 2022 https://www.shibaura-it.ac.jp/extra/campus_diary/2022/ 学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/class.html 【 J15】安全の手引き 保健室/学生相談室 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/counseling.html 図書館 http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 工学部学習サポート室Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/learning_support.html ハラスメント防止規定/委員会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/compliance/harassment.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)〔3〕	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	工学部学習サポート 室では、平日の午後に数学、物理学、化学、英語の学習サポートを実施している。またTA制度や図書館、およびPC室のサポートも行っている。そのほか、奨学金支援などのサポートも実施している。 学生支援に関わる活動実績の記録が存在し、工学部教授会での報告がなされている。	変更なし	【 K06】 芝浦工業大学ティーチング・アシスタント 規程 奨学金: CAMPUS DI ARY 2022 https://www.shibaura-it.ac.jp/extra/campus_di_ary/2022/ 図書館Webページ http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 工学部学習サポート 室Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/earning_support.html 学術情報センター http://www.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【 J16】 CAMPUS DI ARY 2023 【 J13】 (化学)学習サポート 室指導記録 【 J17】 「電話によるカウンセリング、健康相談受付」利用実績 【 T32】 学生相談室利用状況2016-2023 保健室/健康相談室 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/campus_life/counseling.html ハラスメント 防止規定/委員会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/educational_foundation/compliance/harassment.html
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)〔1〕	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	シラバスには、科目ごとの達成目標、評価方法と評価基準、対応する学修・教育到達目標が明記されており、それによって評価されている。全てのシラバスは大学Webページの「芝浦工業大学シラバス検索システム」から参照することができる。 評価基準および評価方法は、各教科のシラバスに明記されている。科目ごとの評価は各担当教員がシラバスに記載した評価基準に基づいて行っている。複数の学修・教育到達目標を持つ科目についてはそれぞれの目標に対応する評価と達成度を目標毎に教員と履修生の双方で点検できる。	変更なし	芝浦工業大学シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 【 J18】 シラバス(プログラムに含まれる共通、専門、実験科目等抜粋) 【 J07】 JABEE達成表 2015、2016、2017年度 【 J19】 成績通知書 2019、2020、2021、2022、2023年度 【 J06】 授業実績記録2019、2020、2021、2022、2023年度 【 J20】 2019、2020、2021、2022、2023年度複数学修・教育到達目標別成績 【 添付資料編】表2
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)〔1〕	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	「芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程」により、本学工学部の学生が本学以外の教育機関(大学などの教育機関及び文部科学省が認定した教育施設等)で学外単位等を修得した場合、教育上必要と認めるときは本学の単位として認定を受けることができる制度を定めている。この制度では、在学中に取得した学外単位と入学前に取得した学外単位はそれぞれ60単位を上限として本学の単位として認定を受けることができる。 他大学等のJABEE認定プログラムで取得した単位については該当プログラムのシラバスを基に対応する科目の単位を原則として認定する。JABEE認定を受けていないプログラムで取得した単位(編入等を含む)の場合は原則としてこれを学科修了に必要な授業時間、卒業単位としては認めない。工学部外の単位認定については別に規定を設けている。尚、JABEEプログラムは2017年度生をもって終了している。	変更なし	【 K26】 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 【 K28】 編入学試験要項 【 K29】 マレーシア留学生編入学試験要項 学修の手引 https://www.shibaura-it.ac.jp/campus_life/class/class.html
3(2)〔2〕	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	単位認定は工学部教務委員会が行っている。基礎・教養科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。 学生本人の単位認定の申請に基づき該当する科目の担当教員の意見を基に該年度の教務担当教員が学科教室会議に諮り、さらに工学部単位認定委員会の審査を受け、教授会で審議の上で、編入前の取得単位として認定する仕組みがある。	共通科目を基礎・教養科目に修正	【 K30】 学外単位認定について(依頼) 【 K31】 工学部教務委員会報告 該当しない
3(2)〔3〕	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程によって定められている。 学生本人の単位認定の申請に基づき該当する科目の担当教員の意見を基に該年度の教務担当教員が学科教室会議に諮り、さらに工学部単位認定委員会の審査を受け、教授会で審議の上で、編入前の取得単位として認定する仕組みがある。	変更なし	【 K26】 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 学修の手引 http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 該当しない

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(2)〔4〕	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	単位認定は工学部教務委員会が行っている。共通科目については共通科目群へ、専門科目群については専門学科へ認定案の作成を依頼し、教務委員会が最終単位認定を行った後に教授会で承認を得る。	変更なし	【 K26】 芝浦工業大学工学部学外単位等認定制度規程 【 K30】 学外単位認定について（依頼） 【 K31】 工学部教務委員会報告 学修の手引 http://syllabus.shibaura-it.ac.jp/ko1.html?f=ko1&b=1 該当しない
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)〔1〕	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	達成度評価方法と評価基準はそれぞれの科目ごとに定められており、シラバスに明記されている。複数の学修・教育到達目標を持つ科目ではそれぞれの目標ごとに評価し60%以上の得点をもって合格としている。JABEE達成表が存在し、入学年度ごとの修了要件が示されている。プログラム履修生は随時S*gsot(ガソット)から自身の総合的な達成度を自己点検することができる。尚、JABEEプログラムは2017年度生をもって終了している。	一部文章を修正	【 K04】 S*gsot画面JABEE達成表 【 J07】 JABEE達成表 2015、2016、2017年度 【 J20】 2019、2020、2021、2022、2023年度複数学修・教育到達目標 成績 http://syllabus.shibaura-it.ac.jp
3(3)〔2〕	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	◎	講義科目については課題レポート、中間試験、期末試験などを総合して100点満点とし、実験科目については、実験報告書その他、プレゼンテーションや試問の評価を総合して100点満点とし60点を「合格」の基準としている。必修科目については、複数教員による評価の確認作業を行っている。	変更なし	【 K04】 S*gsot画面JABEE達成表 【 J07】 JABEE達成表 2015、2016、2017年度 【 J19】 成績通知書 2019、2020、2021、2022、2023年度
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)〔1〕	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	JABEE達成表により修了生全員が学修・教育到達目標を達成している。尚、JABEEプログラムは2017年度生をもって終了している。	変更なし	【 J21】 2016年度、2017年度卒業生 JABEE達成表 【 J22】 2020年度、2021、2022、2023年度卒業生 単位取得状況
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)〔1〕	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	基準1(2)の(a)～(i)と応用化学科の学修・教育到達目標および開設されている科目との対応は資料の表2、表3に示されており、修了生は卒業時にこれらの能力を身につけている。	変更なし	【 添付資料】表1、表2、表3、表4
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)〔1〕	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	教育プログラム自己点検委員会があり、その中で学科の教育活動を点検している。工学部では学科別自己点検書を毎年作成して点検を行っている。教授会（年11回開催）から、教育開発本部（企画・運営部門）、教務委員会、入試委員会、学科会議に至るまでのPDCAサイクルの役割分担がなされ、プログラムの教育活動を点検している。	変更なし	【 K11】 教育プログラム自己点検委員会議事録 【 K32】 2023年度工学部学科等個別自己点検書作成依頼 【 T33】 工学部のPDCAサイクル 工学部教育開発本部Webページ https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/faculty_development/
4.1(1)〔2〕	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教授会をはじめとするすべての委員会には議事録が存在し、教職員に公開されている。	変更なし	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議（学群会議も含む）議事録
4.1(1)〔3〕	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	工学部の教育点検システムフローにしたがってPDCAが行われ、活動とその点検が行われている。	変更なし	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議（学群会議も含む）議事録
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2)〔1〕	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	授業アンケートや学生による教育評価アンケートにより、学生からの要望を吸い上げる仕組みがある。合同企業説明会参加企業へアンケートを実施している。また、外部評価委員会（大学基準協会大学評価）による点検も行われている。卒業生・企業・父母懇談会における父母からの要望・意見等（学事課）を集計し、教職員に公開することにより社会の要求や学生の要望に配慮している。	変更なし	【 K33】 授業アンケート 【 K34】 学生による教育評価アンケート 【 K35】 合同企業説明会アンケート 大学点検・評価分科会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html 【 T34】 学生センターによる学生の要望に基づく話し合い報告 【 J24】 父母懇談会について（後援会だよりしばうら第25号） 相談コーナー

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	工学部教育点検システムとして、学校法人芝浦工業大学評価委員会、工学部JABEE推進委員会が存在し、自己点検・評価、外部評価、第三者評価が実施されている。工学部教務委員会（年13回開催）をはじめ大学教育再生プログラム(AP)教学会議（年10回開催）、教育プログラム自己点検委員会（年2回開催）によりプログラムのしくみと機能の点検がなされているほか、学外部評価委員会、(財)大学基準協会による大学基準の適合認定等を受け、その結果が公開されている。	変更なし	【 K11】 教育プログラム自己点検委員会議事録 【 K32】 2016年度工学部学科等個別自己点検書作成の依頼 大学点検・評価分科会 https://www.shibaura-it.ac.jp/about/education/evaluation/inspection.html 【 J25】 大学外部評価委員会総括 【 J26】 カリキュラム変更一覧 大学基準の適合認定 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/accrredited.html
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	教育評価、点検結果は教授会で報告されるとともに、大学web上にも公開されている。応用化学科の教室会議議事録は会議開催後に構成教員にメールで配信され、材料科学・化学群書記センターに保管されており、随時閲覧することが可能になっている。	変更なし	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議(学群会議も含む)議事録
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	工学部入試委員会、工学部教務委員会、工学部教育開発本部が存在し定期的に委員会が開催され、継続的な教育改善が提案されている。また教授会と同様に応用化学科教室会議は月例会であり継続的な改善が提案、審議、実施されている(2024年度より課程制に移行することもあり、2023年度は学群会議をより多く実施している)。	一部変更	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議(学群会議も含む)議事録
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	上記委員会による提案事項は工学部教授会にて審議、可決された案件は実施されている。	変更なし	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議(学群会議も含む)議
5.2	その他特記事項		1年生を対象とした工業化学概論では、インドネシアのWidya Mandala Catholic Universityならびに国立台湾科技大学と合同で国際PELを実施した。具体的には、クラスを24チームに分け(1チーム3-4人)、割り当てられた化学現象について調べ、アニメの筋書き(ストーリーボード)を作成した(インドネシアと台湾のチームも同じく作成する)。次いで、外国のチームとストーリーボードを交換し、それに沿ってアニメーションを作成し、英語で発表および討論を行なった。発表、ストーリーボード、アニメーションについて、3大学の教員で評価した。英語での発表・討論や外国人学生との交流はほとんどの学生にとって初めての体験と考えられるが、多くの学生が積極的に参加し、SGJ事業に関連した導入部の授業としては大変有意義であったと考えられる。	工業化学概論で行なったグローバルPELを記載	【 K09】 工学部教授会開催通知 【 K10】 工学部学群・学科主任、科目代表者会議開催通知 【 J23】 2020、2021、2022、2023年度学科会議(学群会議も含む)議事録 2023年度工業化学概論シラバス
	旧共通学群の教員が分属された効果はありましたか？	◎	・卒業研究生の配属人数に関して、改めて協議が行われ、明確に人数が定められ、毎年決まった人数が基礎・教養科目担当教員の研究室に配属されるようになった。(以前は、定員が年によって増減しており一定せず、定員の根拠も曖昧であった。) ・基礎・教養科目担当教員から選出された1年生の担任が、補助的な役割でなく、主体的な役割を果たすことができるようになった。そのため、担任として1年生とコミュニケーションする機会も増加し、個々の1年生の状況について、以前より詳しく把握することができるようになった。 ・基礎・教養科目担当教員が教室会議に参加することで、初年度教育に関する学の方針について深く議論できるようになった。 ・英語教育においても、今年度より学科独自開講の教養科目「ビジネス英語」が開講され、応用化学科の学生のニーズに合ったきめ細かい指導ができるようになった。 ・基礎・教養科目担当教員が応用化学科の運営に参加することで、専門教育教員の英語教育への理解が深まった。	共通科目を基礎・教養科目に修正	
	産学連携・SDGへの挑戦はありましたか	◎	3年生対象の化学工業総論では、企業の方に来校いただき、業界の現況、会社での業務、社会で求められる人材等について講演(その後学生との質疑応答)いただいている。講演いただく企業は、特定の業界や大手に偏らないように配慮している。2022年度からは、一コマあたり2社合計24社(従来は一コマ1社合計12社)の企業に講演を依頼しており、これまで以上に多様な業界の現況や業務を知ることができるようになった。本授業は教育効果に加え、就職活動の際にも大変役立つようで、学生からも好評である。	内容を修正	2023年度 化学工業総論シラバス